

TOP INTERVIEW



山本 孝二 町長

大賞受賞を自信と勇氣に
自分たちのまちづくりへ

御船はかつて、酒造業で御船川左岸が繁栄しました。近年はシンボルロード線や国道バイパス443、445号の整備で、右岸へにぎわいが移りました。交通の利便性が向上した一方で、通過都市への懸念もありました。そこで、町の観光資源「恐竜博物館」の再整備を目玉に、都市再生整備を計画しました。その評価として、創意工夫大賞を受賞でき、自信や勇氣となります。「人と人のつながり」から「共創」のまちづくりを基本理念にマニフェスト（約束）に掲げて、町民の皆さんと「自分たちのまちは自分たちでつくる」という地域づくりを目指します。



●御船地区都市再生整備計画

地域の歴史、文化や自然環境などの特性を生かし、地域主導の個性あふれるまちづくりを支援するための計画。国の交付金を活用して、地域の創意工夫でオーダーメイド型のまちづくりが可能となる。平成21年3月に策定。

年3月に策定しました。具体的には「人集い夢かなう文化交流空間」の形成を図るため、▼恐竜、酒蔵、音楽などを生かした交流拠点の魅力再生▼住民と来街者の活動や交流による地区のにぎわい再生▼子育て支援、交通ネットワーク、公園整備による住環境の向上の3項目の数値目標を設定。新恐竜博物館や子育て支援センターの利用者と、コミュニティ活動の参加者の増加を目指して、オリジナルのまちづくりを進めています。

都市計画係では、「今回の受賞はまだ計画段階ですが、高い評価をいただき事業推進の後押しとして素直に喜んでいきます。これから、事業完了後の目標達成が重要となります。さらには完成後、『まちづくり大賞』を目指したいと思います」と話しています。



声 Voice

全国表彰の受賞を町民の皆さんはどのように受け止め感じているのか話を聞いてみました。



福味 総一郎 町商工会長

町はこれまで活性化事業に取り組みながら活力を保ってきました。そのなかで都市再生整備計画は将来への希望を抱けるものと考えます。恐竜博物館整備は町にとってチャンスです。10万人以上の来町者も夢ではありません。シンボルロード線は文字通り「町のシンボル」。私たちの手で愛する町を育てれば、町民に豊かさを運んでくれると期待しています。

馬場 洋一郎 中辺田見区長

町民が主役のふるさとづくり——。新たなまちづくりに計画段階から町民として参加でき、責任とやりがいを感じます。しかし問題はこれからです。町民一人一人が責任を持って、管理運営に携わることで、施設の価値、町全体の活性化につながると感じます。私たちの町は私たちの手でつくること。安全安心で住みよい日本一の町が目標です。



計画 Plan

シンボルロード線沿いに整備される事業を年度ごとに紹介します。

22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
①②③	④			事業評価
		⑤⑥⑦⑧		
			⑨	

①街なかギャラリー
④ポケットパーク
⑦観光交流センター

②迎町高校線改良
⑤ふれあい広場
⑧子育てふれあい館

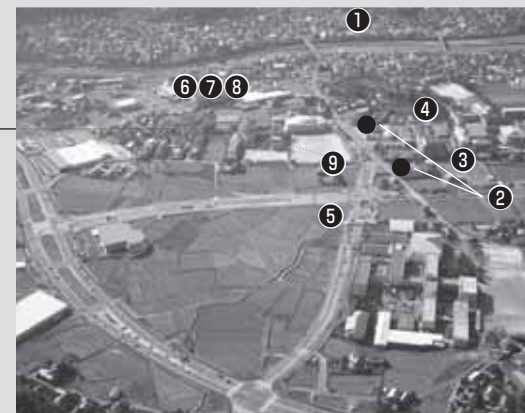
③城山小学校線改良
⑥新恐竜博物館
⑨辺田見役場線改良



創意工夫大賞

Original idea

都市再生整備計画で①テーマ設定②まちづくりアイデア③計画策定の手順一が優秀な地区を対象に全国で1点を表彰するものです。



■期間 平成22-26年度 ■面積 204㏊
■人口 18156人(地区内7937人) ■事業費 13億5千万円



評価 Assessment

▽地域資源を生かした魅力の再生
▽広場整備によるにぎわいの再生
▽既存建造物を活用した住環境の向上



まち交大賞表彰式で表彰を受ける山本町長（都市みらい推進機構提供）

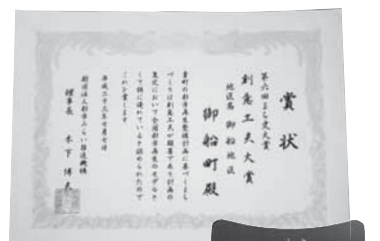
問

建設課都市計画係

282-11312

御船流のまちづくりが全国表彰

都市再生整備計画がまち交大賞「創意工夫部門」で大賞



全国表彰5部門8点のなかで御船地区が受賞した創意工夫大賞の表彰状と盾

